



# 新年あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。

昨年の元日は、能登半島地震が発生し、当院は屋上のパネルが損壊するなど大きな被害を受けました。「人は見た目が9割」という説もありますだけに、病院の看板であるパネルが崩落したみすばらしい姿は、私たち職員にとってもショックでしたし、利用者の皆様方からも多くの心配のお言葉をいただきました。ようやく関係各所のご支援で修繕が始まり、少し安堵しているところです。

さて、昨年来報道されている通り、新潟厚生連は、経営危機が表面化し、地域の皆様方をはじめ当院の職員にも、大きな不安とご心配をお掛けしてきました。私たち厚生連は、公的医療機関とはいえ、民間事業者であり、しっかりとした財務基盤がなければ、経営破綻してしまいます。折しも、昨年の日本病院学会の相澤会長の基調講演で、「我が国の病院は、撤退戦の局面に入っている」との認識が示されました。少子高齢化、人口減少社会で、いかに地域の皆様方の健康を支え、医療を守っていくか、特に上越妙高地域のような過疎地の医療が、大きな曲がり角に来ていることは間違いありません。安穏と現状維持を続けていけば、地域医療はあっという間に立ちいなくなり、地域から病院が消滅する危機に瀕していると感じています。

そういった大きな転換期の中、私たちけいなん病院は、医療の基本をしっかりと見つめ直し、「何のために、けいなん病院は存在しているのか?」「私たちは、何のために病院で働いているのか?」という使命をしっかりと考えながら、本年も地域の皆様方の健康を支えてまいりたいと思っています。

厳しい1年になることが予想されます。「春の来ない冬はない」という希望と、一方で「変化に対応できないものは淘汰される」という強い危機感を持って、私たちは歩みを進めてまいります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



病院長 平野 正明

新年あけましておめでとうございます。地域の皆様、関係者の皆様には、日頃よりけいなん総合病院並びに老人保健施設はねうまの里の運営に格別のご高配を賜り厚く感謝申し上げます。

私は、令和6年4月1日付け人事異動にて病院事務長兼老健事務部長として着任しております久住信司郎と申します。当院には16年ほど前に3年間勤務させていただいており、今回が2度目の赴任になります。当時からは地域事情や病院機能が変わっているところもありますが、職務に精励して参りますのでよろしくお願いいたします。

さて、当院の運営状況としては、先人の経営改革や地元自治体である妙高市のご協力等により、近年は黒字運営を継続出来ております。しかしながら、各種報道にあるとおり本会全体では、非常に厳しい経営状況にあり、当院の今後についても決して楽観できるものではありません。昨年の能登半島地震により損壊した病院建物の修繕や病院情報システムの更新による設備投資負担、最低賃金の上昇、物価高騰による各種経費の上昇により、事業収益だけでは費用を賄い切れない状況になって来ております。この様な状況の中、新潟県や地元妙高市へ財政支援をお願いしながら、更なる経営改革に取り組んで行かなければならないと思っております。何れにしましても、当地域に必要な医療を今後も継続的に提供できるように努めて参りたいと思っておりますので、地域の皆様、関係者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



事務長 久住 信司郎

## 職場紹介シリーズ 薬剤部



こんにちは。薬剤部について紹介いたします。

「薬剤師は調剤、医薬品の供給、その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」と薬剤師法第1条に定められております。難しい文言で書かれておりますが、要は「薬に関わることで皆様の健康管理に役立つことを生業とする」ということですね。

そこで突然ですが質問です!皆様「薬を不安なく飲んで(使えて)ますか?」

薬を調剤し(つくり)、お渡するだけであれば、AI技術が進むこの時代に薬剤師ではなくロボットにより代替されるでしょう。当薬剤部では「地域の患者さんより信頼される安心・安全な薬物療法を提供する」を理念に皆様安心して薬を飲むよう個人に合わせた説明を実施した上で薬をお渡ししております。というも、同じ薬を使用する患者さんでも使用目的や身体状態がそれぞれ異なるため、その方に沿った使い方や量があるためです。

医師から処方された薬が何故必要なのか、他院で処方された薬との飲み合わせは問題ないのか、そうした疑問などにも答えし皆様積極的に治療に参加できるようサポートして参ります。その際、お薬手帳をご持参いただくことでよりスムーズに正確な対応が可能となります。薬のことで困った際は、お気軽に薬剤部スタッフへお声がけください。お電話でお問合せいただいても結構です♪

委員会紹介シリーズ

## みなさんを感染から守るため、頑張っています。

インフェクションコントロールチーム  
～院内感染対策委員会 (ICT: Infection Control Team)～



こんにちは。感染対策委員会です。

### ● ICTって?どんなことをするの(しているの)?

病院内で感染症対策をおこなっている委員会です。

### ● メンバーはどんな職員がいるの?

医師、感染管理認定看護師(CNIC)、看護師、薬剤師、臨床検査技師、など多職種で構成されています。

### ● 具体的な取り組み

病院を利用される多くの方々は、他の人に病気をうつしてしまう感染症を治療するために、また持病を治療(病気のため免疫力が低下して感染症にかかりやすい)するために来院している方がほとんどだと思われます。

私たちは、人から人を介して感染性のある病原体を蔓延させないよう感染対策(清掃や手指消毒など)を中心に、教育や情報提供や指導を行っています。感染ICTの主な活動は次のとおりです。

- 1) 院内の感染発生リスクの検討
- 2) 感染対策の向上に向けた現場スタッフとの連携
- 3) 院内ラウンドによる感染対策の不備の指摘と改善
- 4) 抗菌薬の使用量や治療効果などのデータの収集・分析
- 5) 感染対策に関する教育や啓蒙活動
- 6) 多剤耐性菌やウイルスによるアウトブレイクの早期発見・早期対応
- 7) 院内感染対策に関するマニュアルの作成と改訂
- 8) 院内の抗菌薬適正使用の監視
- 9) 職業感染防止対策
- 10) ワクチン接種、針刺し・切創および皮膚・粘膜曝露時の対応、結核対策。

院内だけでなく、近隣の病院やクリニック等と共に地域の感染対策を推進する役割も担っています。保健所と情報を共有してインフルエンザや新型コロナウイルスをはじめとした感染性病原体の流行を把握して、先手先手で対策および対応しております。

このような活動を通じ病院感染の発生の予防対策や、発生時における迅速な対応の徹底に務めています。

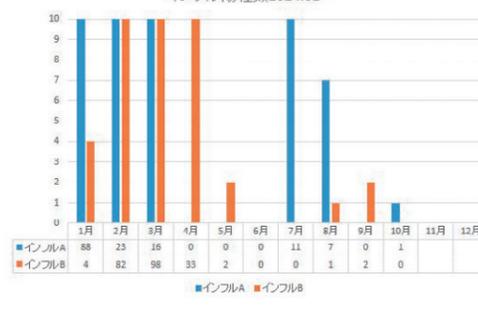
病気を治療するために病院に来たのに感染症にかかってしまったり、働く職員に感染してしまわないように日々活動しております。

皆さまにお会いすることは、あまりありませんが安心して受診できるよう感染症対策の面からしっかりと支えてまいります。

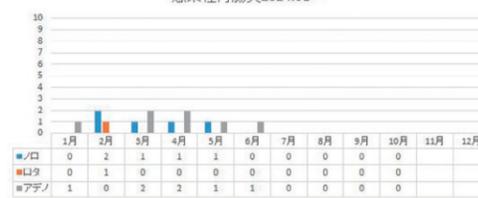
## 院内感染情報レポート 2024年 10月

	検査数	陽性数
MTB/PCR	0	0
CD毒素	7	1
新型コロナ	356	22(6.2%)

インフル陽性数2024.01~



感染性胃腸炎2024.01~



感染症2024.01~



けいなん総合病院 ICT委員会

## 感染管理認定看護師(CNIC)ってなに?

特定の看護分野において日本看護協会の認定を受けた看護師のことです。取得後は「実践」「指導」「相談」の役割を担います。「実践」は、病院での感染を予防する・感染の広がりを抑える、といった取り組みを行うことです。「指導」は、病院のスタッフに対して感染管理の考え方や方法をレクチャーすることで

。「相談」は、院内の感染管理について医師、薬剤師などの多職種間でコンサルテーションを行ったり、院内のスタッフの感染管理をサポートしたりすることです。感染管理は病院全体で取り組む必要があり、さまざまな職種のスタッフとともに対策の計画や環境・制度づくりを行っています。



感染管理認定看護師 葭原 那佳子